

令和6年度

ジャパンフラワー強化プロジェクト推進

活 動 報 告



花の里かがわ推進委員会

令和7年3月

1 事業実施地区の課題

- 花き生産者の高齢化などに加え、燃油・資材の高騰により、花きの栽培面積や生産者はともに減少しており、生産額も減少傾向が続くなど、県内の花き生産は深刻な状況である。その中で、県内の花き生産のなかでも、ラナンキュラスは、県オリジナル品種の開発やその種苗の供給、また栽培技術の普及により、生産拡大が進んでいる品目であり、栽培は県内全域に拡大している。新たな品種のバリエーションも広がるなか、新品種の安定的な種苗供給や、品種に応じた栽培技術は、今後の安定生産には欠かせない。
- また、花きの物流については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、新しい輸送体系として航空便から陸送便への転換が進んだが、物流の2024年問題によるトラックドライバーの不足に加え、燃料費の高騰等による送料の値上がりや、ひいては撤退等も懸念されているところであり、その対応が急務とされている。
- さらに、消費面では、若い世代の花き消費が低迷するなか、新たな取り組みとして花いけバトルによる花き需要の向上に取り組んでおり、大会やそのライブ配信を通じて県産花きの魅力を全国に発信し、購買層の拡大を図っている。

2 事業の目的

- 2024年問題を見据えた花き物流の安定的な確保に向けて、花き流通体制の効率化と低コスト化の検討に取り組む。
- 若い世代の花き消費が低迷するなか、購買層の拡大に向けて、県産花きの認知度向上・消費拡大に取り組む。
- ラナンキュラス種苗の安定的な確保に向けた技術検討、新品種の生産拡大に向けた現地実証に取り組む。

実施にあたっては、令和3年11月に策定した「香川県花き振興計画」に即し事業を推進する。

3 活動実績

(1) 花き流通の効率化等の取組

花き流通体制の効率化に向けた検討

ア 検討会等の開催

【①令和6年度花き物流効率化に向けた検討会の開催】

- 1) 実施場所 香川県園芸総合センター 2階研修室（ハイブリッド開催）
- 2) 実施時期 令和6年7月24日（水） 午後2時～4時30分
- 3) 対象者 県内花き生産者、市場関係者、物流関係者、JA、県 61名（WEB参加を含む）
- 4) 内容

各担当より、下記内容について報告と意見交換を実施した。また、令和6年度に取り組むかがわ花き流通効率化システムと県内市場への集荷体制の効率化について、参加市場から意見を募った。

- ・ 花卉輸送への取り組みと今後の輸送 について
（佐川急便（株）・（株）大谷商会）
- ・ 令和5年度 花き物流効率化に向けた取組み
報告について（花の里かがわ推進委員会）
- ・ 令和6年度 花き物流効率化に向けた取組み
計画について（花の里かがわ推進委員会）
- ・ 市場からの意見・要望（各市場関係者）
- ・ 花き物流の課題について（自由意見の集約）



検討会の様子

ウ 流通の効率化に資する技術実証、報告書作成等

【①「かがわ花き流通効率化システム」の実用化・市場連携体制の強化に向けた実証】

「かがわ花き流通効率化システム」については、花き生産者の出荷作業の省力化ならびに市場・輸送事業者との情報伝達の効率化を図るため、商品情報の記載されたバーコードを発行し、それを出荷箱に貼付け、機器で読み取ることで送り状の作成と輸送事業者、市場への送信、ならびに送付した送り状を活用して市場から生産者へ仕切り状の送付が可能となるもので、本事業にて令和5年度に作成し、県内生産者から大田市場への輸送試験を実施した。

令和6年度は、その輸送試験を通じて得られた新たなシステムの課題を改善して、より実用的な形に近づけるとともに、複数の市場との連携体制を築くための実証試験を行った。

実施の結果、「かがわ花き流通効率化システム」の改修及び機能追加を行い、令和5年度の課題については、解決することが出来たが、輸送実証試験等を通じて、市場連携強化に向けた次の段階の課題を洗い出すことができた



ラベルプリンタによる印刷の様子



ハンディによる連続読み取りの様子

【②県内市場への集荷体制の効率化に向けた実証】

現在、県内市場向けの花きの集荷については、生産者団体のトラックが、県内の約20件の花き生産者からミルクラン方式で集荷をしている。繁忙期には集荷時間が約10時間かかることから、長時間かつ手積みの荷受け作業が、ドライバーの大きな負担となっており、集荷の継続が危ぶまれる状況となっている。

そこで、集荷拠点を設置し、集荷拠点に台車を導入することにより、輸送・荷役作業時間の低減・労力負担を軽減するための実証試験を行った。

実施の結果、実証区と慣行区で作業時間に差は見られなかったが、その原因について検討し、効率的な流通体制の確立のための課題を洗い出すことが出来た。



台車使用時の様子（ALFLOC-BD 型）

(3)新たな需要開拓消費拡大に向けた地域段階の取組

県産花きの認知度向上・消費拡大に向けた取り組み

イ 消費者等への普及啓発活動

【①ヒマワリ産地交流会の開催】

- 1) 開催日時 令和6年7月31日(水) 午前9時50分～11時45分
- 2) 開催場所 ほ場見学：三豊花卉部会ヒマワリ部ヒマワリ生産者ほ場(三豊市仁尾町)
アレンジメント製作体験、意見交換会：JA 香川県仁尾町支店
- 3) 参加者 花に興味のある県内高校生とその関係者 7名
- 4) 内容 ①ヒマワリほ場見学、播種体験
三豊花卉部会ヒマワリ部長の浪越久司氏よりヒマワリの栽培についての説明とともに、播種機を使用した播種体験を行った。
②ヒマワリを使ったアレンジメント制作体験
香川県産花き取扱協力店で、地元三豊市の生花店である関氏より説明を受けながら、ヒマワリを使ったフラワーアレンジメントを制作した。
③意見交換
三豊花卉部会ヒマワリ部長の浪越久司氏と参加者で意見交換を実施した。

5) 開催結果

花に興味のある高校生とその指導者を対象に、全国第3位の出荷量であるヒマワリについて、県内で一番多く栽培されている産地の見学やヒマワリを使ったアレンジメント制作体験を通じて、花き生産における生産者の想いや苦労、工夫などについて、生産現場を見学する機会や意見交換の場を設けたことで、県産花きの認知度向上と消費拡大を図った。意見交換では、「種まきの時期と咲かせる日数、その年の気候との調整はどのようにしているのか」や「ヒマワリの魅力と一番体験なこと」等について質問があり、生産現場の理解が深まった。



ヒマワリ播種体験の様子



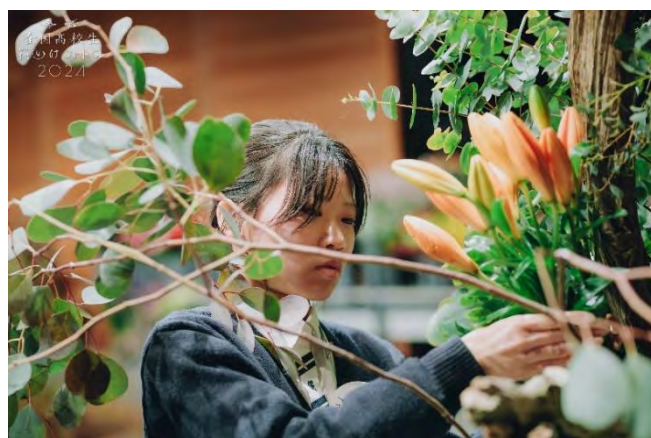
アレンジメント制作体験の様子

【②全国高校生花いけバトル全国大会での県産花材の普及啓発活動】

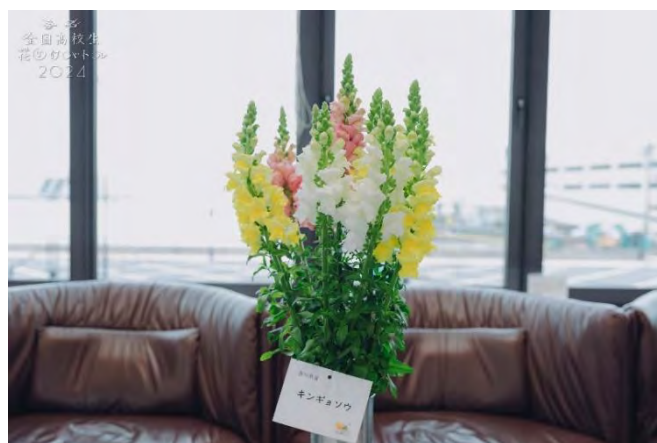
- 1) 開催日時 令和7年2月2日（日）午前9時30分～午後4時30分
- 2) 開催場所 レクザムホール小ホール（高松市）
- 3) 参加者 各地区大会代表 12 チーム
- 4) 内容

全国高校生花いけバトル全国大会の会場で県産花材を展示するとともに大会の競技用花材にすることで、県産花きの認知度向上と消費拡大を図った。当日は観客 600 名が来場し、県産花きを紹介したうちわを使って、審査に参加した。大会ライブ配信動画の再生回数は、アーカイブ再生も含め R7 年 2 月末時点で延べ 5,750 回再生されている。

来場者を中心にアンケートを実施した結果、花の購入頻度は、回答者の 36%が「月に 1 回程度」と最も多く、次いで「年に 1 回程度」が 28%となっており、21%が「買わない」と回答した。しかし、回答者の 85%が「今回のイベントで今以上に家庭に花を購入したいと思った、あるいは少し思った」と回答し、普及啓発につながったと考えられる。また、「バトルの中に紹介される花の名前や、産地も知れて楽しめます。」、「ラナンキュラスについて学びました。」との意見等があり、県産花きの認知度向上に繋がった。



県産花材を使用した大会の様子



ロビーでの県産花材展示の様子

エ 花きの活用促進のための花育体験、園芸体験等

【①全国高校生花いけバトル香川大会の開催】

- 1) 開催日時 令和6年8月17日(土) 午後1時～5時
- 2) 開催場所 サクラートたどつ(仲多度郡多度津町)
- 3) 参加者 10校23チーム
- 4) 開催結果 優勝: 英明高等学校 チーム「英明烈花」

当日は、観客300名が来場し、県産花きを紹介したうちわを使って、審査を実施した。大会アーカイブ動画の再生回数は、R7年2月末時点で1,900回となっている。会場には県産花材と中心とした約50種類の花材を準備し、大会の中で紹介するとともに、ロビーに県産花きを展示し、認知度の向上を図った。また、同会場にて県内生産者が当日使用される花材について来場者に紹介した。なお、大会の受付や会場設営、写真撮影等、大会の運営に高校生が積極的に参加することにより、より高校生が花に触れ、主体的に運営しながら、持続可能な大会を目指した。

大会アンケートを実施した結果、出場生徒の90%が「今回のイベントを通じて、今以上に家や学校に花を飾りたいと思った、あるいは少し思った」と回答した。また、高校卒業後の花との関わりかたについては、6%が「花に関わる仕事につきたい」と回答し、56%が「生活の中で花をいける」と回答した。

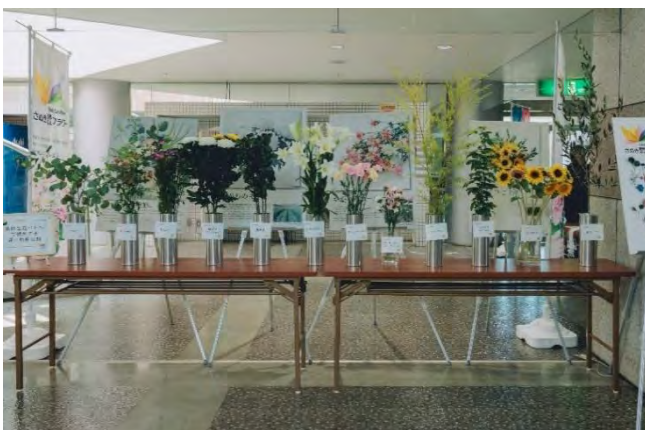
来場者の89%が、「今回のイベントで今以上に家庭に花を飾りたいと思った、少し思った」と回答し、出場者・来場者ともに、花きの活用促進につながった。



県産花きを使用した大会の様子



県産花きを中心とした約50種類の花材



会場での県産花きの展示の様子



— 6 — 県内生産者が当日使用される花材について紹介

（５）産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

県産花きの生産性向上、種苗の安定供給に向けた検討

ア 技術実証やセミナー開催等

【①ラナンキュラス新品種「春てまり」の現地での栽培特性調査】

県オリジナルのラナンキュラスの新品種として、今後現地に普及予定の、現地選抜系統に比べ高温耐性をもつピンク系複色品種「春てまり」については、複色品種であるために、時期により花色が変化し、花色の幅が大きい傾向がある。そこで、今後の産地でのスムーズな普及を図るため、現地（５か所）での栽培特性や時期別の花色変化について調査を実施した。

結果、冷蔵処理時の出芽状況について、全調査区で萌芽率は、100%であった。また、全調査区で１番花の後に端境がみられた。花色の変化は調査区によって差がみられた。



定植前の塊根



時期別花色

（上段：11月13日、中段：1月23日、下段：2月20日）

【②ラナンキュラス新品種「あんずてまり」の最適な冷蔵処理温度の検討】

県オリジナルのラナンキュラスの新品種である「あんずてまり」については、昨年度現地栽培調査を実施したが、定植前に現地で実施した塊根の冷蔵処理後に発芽不良が見受けられた。そこで、温度の異なる現地（５か所）と農業試験場の冷蔵庫で、従来の温度管理の区と冷蔵温度を変えた区で冷蔵処理後に定植を行い、その発芽調査を行うとともに、各生産者では、その後の生育調査・切り花調査を実施した。

結果、冷蔵処理時の出芽状況について、全調査区で萌芽率は、100%であった。調査区（初期10℃区）は対照区に比べ初期生育が良く、開花時期が早かったが、その後生育の差がなくなり、対照区が勝り、全地区、対照区の方が調査区（初期10℃区）と比較して2月末までの収量が多かった。また、端境があまり見受けられない傾向にあった。



10℃処理区（萌芽状態（定植直前））



慣行区（萌芽状態（定植直前））

【③ラナンキュラス新品種「春てまり」、「あんずてまり」の切前表の作成】

産地で切前を統一し、安定した花を出荷するため、適切な切前（収穫時の開花状況）を生産者が判断できるよう、今後現地に普及予定の新品種「春てまり」と「あんずてまり」の切前表を作成した。新品種の普及に併せて、生産者に配布した。



「春てまり」、「あんずてまり」切前表

【④ラナンキュラス培養苗の管理温度が定植後の生育に及ぼす影響の調査】

近年の地球温暖化による秋期の高温がラナンキュラス培養苗順化時の生育に悪影響を及ぼしていることから、培養苗の適正な順化前管理温度の調査した結果、「恋てまり」は試験管から鉢上げする 10 日前から段階的に温度を上げてやることによって生育が旺盛になるとともに抽苔も早くなり、それによって採花本数も増加し、塊根の分球数も増加する可能性が示唆された。しかし、「あんずてまり」は生育、抽苔ともに大きな差は見られなかったこと、「春てまり」は、抽苔開始は早くなったものの、生育のばらつきは両区ともに大きかったことから、この両品種については、今回行ったような培養中の変温管理による効果は低いと考えられた。以上の結果、培養期間中の環境条件は品種による差が大きいため、品種に関係なく対応可能な高温対策の検討が必要であると考えられる。



定植 16 週後の状況（2 月 24 日）

左から「恋てまり」試験区、「恋てまり」慣行区、「あんずてまり」試験区、「あんずてまり」慣行区



定植 16 週後の状況（2 月 24 日）

左から「春てまり」試験区、「春てまり」慣行区